

チーム名	奈良県立大学 村瀬ゼミ	大学・学部	奈良県立大学 地域創造学部	北陸ステージ
プラン名称	学校再現プラン			
リーダー名	古川 晴美	テーマ	北陸ならではの資源を活かした広域周遊型の「観光まちづくり」	本選出場 北陸経済連合会賞
指導教職員名	村瀬 博昭			
メンバー名	遠藤 香菜恵 中川 勇太			

問題認識

○過去の受賞プラン分析と北陸の現状分析
 北陸三県は生活に関係するランキングで上位に入っているものが多い
 例: 幸福度ランキング、学カランキング、高収入ランキングなど
 →北陸は住みやすく、住民の幸福度も高い地域である
 しかし、観光が盛んな地域にも関わらず観光資源としては活かされていないため、その魅力が他の地域の人たちに十分伝わっていないと感じた。
 →観光資源として活用できれば新たな価値を創造できそうだ
 北陸三県は小中学生の学カランキングで上位三位を独占している
 なぜ学力が高いのか
 →教育の質が高いためではないかと仮定
 北陸の教育を観光資源として活用することができるのではないか

問題の解決策

学校を再現して北陸の学校教育を体験してもらう。授業内容などを完全に再現することで、北陸の教育の質の高さをアピールし、観光資源としての価値を持たせる。
 観光資源以外の資源を活用することで北陸の活性化につながる
 北陸三県共通の観光資源を見つけることで北陸三県の連携がしやすくなる

提案プランの新規性

- ・北陸の教育を観光資源として考えた点
- ・先生や教材のリアリティにこだわり、学校教育を完全に再現した点
- ・ツアーではない周遊プランである点
- ・宿題を出す点まで再現する点
- ・『広域周遊』をただ団体などで周遊し施設やスポットを回るだけでお金が落ちなければ意味がないとし、自由度を確保しながら旅客にお金を遣う機会を与えている店。

提案プランの実現計画

NPOモデル：1施設運用型 キャッシュフロー(1回あたり)
 注 青字：売上 赤字：支払金 運営主体の従業員支払い除く

この図は、NPOモデルのキャッシュフローを示しています。地元NPO団体が中心となり、給食配食（売上）を受け、教育委員会（施設提供）と退職した教員（協力）と連携し、消費者（客）にサービスを提供します。NPOは教育委員会から先生派遣の申請を受け、退職した教員から協力を得て授業を行います。消費者は授業料を支払いますが、NPOは給食配食の支払いも発生します。

・旅行会社モデル：同型3施設運用 キャッシュフロー(1回あたり)
 注 青字：売上 赤字：支払金 運営母体の従業員支払い除く

この図は、旅行会社モデルのキャッシュフローを示しています。旅行会社が中心となり、利用施設（給食配食）と教育委員会（施設提供）と連携し、消費者（客）にサービスを提供します。旅行会社は消費者からサービス料を受け、利用施設に給食配食の支払いを行います。また、教育委員会から先生派遣の申請を受け、退職した教員から協力を得て授業を行います。

B

主体は旅行会社とNPOの二通りを予定している
 給食は地元の給食を手掛けるケータリング会社に依頼する。
 教育委員会に協力してもらい、退職した先生を講師役として起用する。

